

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなく伝統 築こう未来

発行日：令和7年12月15日(月)

発行者：校長 吉岡 大司

「たい」が泳ぐ学校

校長 吉岡 大司

今年も残すところ、あと少しとなり、本格的な冬将軍は、まだまだですが、朝夕とても、「寒さ」を感じるようになりました。

毎年のことですが、この時期、私は、自分なりに「今年1年どうだったのだろうか」と振り返るようにしています。「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」「何がよかったのか」「次はこうしてみよう」と考えることで、次へとつながります。

「振り返り」は、学習活動の中でも、とても大切なことです。

「今日の学習で何を学び、何を理解し、何を考えたのか」を自分の言葉にしてまとめることで、「学び」が深まり、自分のものになるからです。また、日常生活の中でも「振り返り」を行うことで、起こった出来事を一度、脇においてみて、自分や自分に起こった出来事を客観的に見ることができます。「なんであのときはあんなに怒っちゃったのだろう」「あんなに嬉しかったのはどうしてだろう」といったように、一歩引いた位置から自分の行動や出来事を振り返ることができるようになります。

さて、これからの学校には、「どうすれば何がどのようにできるのか」という視点や発想の転換、あるいは「やってみよう」という「チャレンジ精神」。それを受容する組織力が求められているように思います。

来年も、安心・安全な学校であることを大前提としながら、生徒に、「たい」が泳いでいる心を育む学校・授業を目指し、取り組んでいきたいと考えます。

子ども達の「見たい」「聞きたい」「やってみよう」「知りたい」「伝えたい」などという心の動きである心の「たい」には、大きなものから、メダカのような小さなものまであります。

この「たい」の卵を産み付けるのは、私たち大人であり、それに気付いて成長させていくのは、生徒達自身です。思わず行動したくなるような「仕掛け」があちこちにあれば、それだけでワクワクします。

そうです。お化けが出るのが分かっていても、どこにどんな仕掛けがあるのか分からない遊園地のお化け屋敷に入る感覚かもしれません。

ところで、3年生は、3日(水)から始まった3者面談(進路面談)で、進路希望がほぼ決まるなどして、不安と緊張の連続の中、進路に向かいます。

3年生の生徒たちにとって、初めての試練となる「15の春」が近づいてきました。

私たちはこの進路の選択を将来の職業への第一歩として、大切に指導していきたいと考えています。

つまり、「受験」とは、これからどのような生き方をしていくのかを自分に問い続けていく。

その第一歩なのです。では、どんな生き方をすべきでしょうか。

私は、「自分が幸せになる生き方」そして「人を幸せにする生き方をしてほしい」と願います。

だから、受験は、「自分のため」であり、「人のため」でもあります。

中学校を一緒に過ごした仲間と「励まし合い」「時には教え合うこと」を自分の生き方として、捉えることができる3年生に、成長することを期待しています。

そして、1、2年生には、3年生の状況を自分ごととして捉え、学校内外の見聞、学びを通じて、より具体的に将来への展望を語れるようになってほしいと思います。

3年生のフロアには、多くの高校の資料が展示されています。1、2年生の保護者の皆様も、来校の折に、ぜひ手に取ってほしいと思います。

来年も教職員が一丸となり取り組んでまいります。宜しく願いいたします。